

2024年12月9日

日本イーライリリー株式会社

〒651-0086  
神戸市中央区磯上通 5-1-28  
www.lilly.co.jp

EL24-44

## 日本イーライリリー 社員のべ3,200人以上による地域貢献活動、 4つの社会支援団体に総額400万円を寄付

図書寄贈と映画上映会でヤングケアラーを取り巻く環境改善に向けた支援の輪を広げる

日本イーライリリー株式会社(本社:兵庫県神戸市、代表取締役社長:シモーネ・トムセン、以下、日本イーライリリー)は、2024年9月17日(火)より約1か月間にわたり、社員参加型のコミュニティ貢献活動プログラム「リリー・ジャパン・デイ・オブ・サービス(DOS)」を実施しました。全国の社員が地域の社会課題に向き合い、ヤングケアラーや被災地支援について学んだり、チャリティーウォークなど様々な活動に取り組んだりすることで、期間中の参加者はのべ3,200人以上となりました。加えて、DOS期間中の取り組み結果を踏まえ、日本イーライリリーは4つの社会支援団体に総額400万円を寄付いたしました。

### (主な取り組み)

- ヤングケアラーを取り巻く環境改善に向けた取り組み
  - 北海道から沖縄まで19都道府県32か所の子ども食堂や児童館などへの図書寄贈「LLライブラリー」※1
  - ヤングケアラーの実話をもとにした短編映画の上映会とトークセッションの開催※2  
神戸市および東京都港区の会場をオンラインでつなぎ開催。近隣の民間企業17社を含む支援団体、行政、日本イーライリリー社員の計128名が参加
- 石川県の営業社員、被災地ボランティアの経験社員による、被災地支援を学ぶ社内向けセミナー
- 神戸本社、西神工場および全国の献血ルームでの献血(運営含め114名参加)
- 全国各地域でのフードバンクへの寄付、ゴミ拾いへの参加
- 総計25,313kmのチャリティーウォーク

### (社会支援団体への寄付)

- 「特定非営利活動法人ふうせんの会」(ヤングケアラー支援団体)
- 「社会福祉法人兵庫県社会福祉協議会 ひょうごボランティアプラザ」
- 「社会福祉法人中央共同募金会」(赤い羽根福祉募金)
- 「公益財団法人日本財団」



※1 2022年から始まった「LLライブラリー」は、3年間で22都道府県60か所へ図書を寄贈しました。



※2 映画上映会後のトークセッションでは、支援団体と行政の担当者を交え、ヤングケアラーの正しい理解や民間企業の多様な関わり方の重要性が話し合われました。

今後も日本イーライリリーでは、「リリージャパン・デイ・オブ・サービス」を通じて、社員のボランティア活動を応援、促進し、地域の社会課題の解決、改善に貢献してまいります。また、ヤングケアラーを取り巻く環境改善に向けては、支援団体や行政、さらには民間企業との協働を通じて、社会の関心を高め、関わる人とヤングケアラー当事者をつなぎ、支援の輪を広げることで、子どもや若者の未来への選択肢を増やす取り組みを進めてまいります。

### ■ 日本で17年目となる「リリージャパン・デイ・オブ・サービス(DOS)」

デイ・オブ・サービスは、イーライリリー・アンド・カンパニー(以下、リリー)社員によるボランティア活動を応援、促進するグローバルプログラムです。プログラムの期間中、リリーの社員は業務時間内も含めて、毎年一斉に世界各地でコミュニティ貢献活動を行っています。Our Purpose(使命)である「世界中の人々のより豊かな人生のため、革新的医薬品に思いやりを込めて」の実現に向けて、社会により良い影響をもたらす「ソーシャルインパクト」の創出に取り組んでおり、その主要な活動のひとつとしてデイ・オブ・サービスを位置づけています。

日本イーライリリーは、17年間にわたりDOSを通じて、日本全国で地域コミュニティへの貢献活動を行ってきました。また、社員の活動結果に応じた金額を、さまざまな社会課題に取り組む支援団体へ寄付しています。これには、神戸で震災を経験した企業としての震災・災害復興支援、また新型コロナウイルス感染下で支援を必要とする方々への支援、そしてヤングケアラーへの支援が含まれます。

### ■ ヤングケアラーを取り巻く環境改善に向け、社員の思いやりを原動力に

2022年9月より日本イーライリリーは、関わりを持つコミュニティをより良くする「ソーシャルインパクト」創出の一環として、本来、大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行う子どもたち(ヤングケアラー)を取り巻く環境改善に向けた活動を開始しました。その後も、社員のヤングケアラーに関する認知、理解を高めるため、神戸市や支援団体とのイベントの共催、また社内勉強会の促進などを継続的に行っています。有志社員による自発的な企画、運営によって取り組みは拡大し、2024年は社会における認知度も向上させることを目的として、全国での図書寄贈や、ヤングケアラーをテーマとした映画上映会およびトークセッションを実施いたしました。

詳細はウェブサイトをご覧ください。<https://www.lilly.com/jp/social-impact/youngcarer>

以上

### 日本イーライリリーについて

日本イーライリリー株式会社は、米国イーライリリー・アンド・カンパニーの日本法人です。日本の患者さんが健康で豊かな生活を送れるよう、日本で50年にわたり最先端の科学に思いやりを融合させ、世界水準の革新的な医薬品を開発し提供してきました。現在、がん、糖尿病、アルツハイマー病などの中枢神経系疾患や自己免疫疾患など、幅広い領域で日本の医療に貢献しています。詳細はウェブサイトをご覧ください。

<https://www.lilly.com/jp>

#### 【本件に関するお問い合わせ先】

日本イーライリリー株式会社 コーポレート・アフェアーズ本部  
TEL:0120-925-500

(このプレスリリースは本町記者会、厚生労働記者会、厚生日比谷クラブ、道修町薬業記者クラブ、神戸経済記者クラブへ配付しております)

日本イーライリリーは2022年から様々な支援団体と連携して、ヤングケアラーを取り巻く環境改善に取り組んでいます。2024年10月に、ヤングケアラーの実体験をもとにしたオムニバス短編映画『ツナガル』の上映会とトークセッションが兵庫県神戸市と東京都港区で開催され、支援団体や行政の担当者、近隣の民間企業の方々も参加しました。ヤングケアラーの実体験とそこからの学びを共有し、支援の輪を広げるための試みとなりました。

問題の解決策を提示するのではなく、周囲がどう変わるか  
トークセッション「未来に向けて“ツナガル”を考える」

日本イーライリリーは、ヤングケアラーの実情への共感や理解を深めるため、家族のケアをする高校生3人の実話をもとにしたオムニバス短編映画『ツナガル』の上映会を開催しました。映画上映後のトークセッションでは、本映画の制作指揮を務めた「一般社団法人ケアラーアクションネットワーク協会」代表理事の持田氏や行政の担当者が登壇し、ケアラーへの気付きや寄り添う気持ちの大切さ、今後の企業と行政と支援団体が協力した支援のあり方について意見を交換しました。神戸と東京の会場をオンラインでつないだイベントには、民間企業17社を含む計128名が参加し、ヤングケアラーを取り巻く社会課題への理解と支援の輪を広げる場となりました。

本イベントは日本イーライリリーのヤングケアラープロジェクトにおいて、初めて民間企業を巻き込んだ企画で、他の企業や団体と協力し、活動の幅を広げていくことを目指しています。



東京会場の様子

持田 恭子氏（左から2番目）、中村 理恵氏（左から3番目）



神戸会場の様子

上田 智也氏（右）

【概要】

名称：日本イーライリリー ヤングケアラープロジェクト 短編映画『ツナガル』上映会&トークセッション

テーマ：未来に向けて“ツナガル”を考える

登壇者：一般社団法人ケアラーアクションネットワーク協会 代表理事 持田 恭子 氏  
東京都港区 子ども家庭支援センター 地域連携担当 ヤングケアラー支援コーディネーター 中村 理恵 氏  
神戸市 福祉局 相談支援課 こども・若者ケアラー相談・支援窓口 担当課長 上田 智也 氏

主催：日本イーライリリー株式会社

後援：一般社団法人ケアラーアクションネットワーク協会、神戸市

協力：東京都港区

開催日：2024年10月18日（金）

場所：東京会場（港区子ども家庭総合支援センター）、神戸会場（日本イーライリリー株式会社 神戸本社）

参加者：128名（近隣の民間企業17社、神戸市や港区の関係者含む）



## 「一歩踏み出す その勇気で広がる世界」に込められた思い

映画を製作した持田氏は、ヤングケアラーが自身のことを打ち明けるハードルについて触れ、周囲の理解やつながりが、彼らにとって一歩を踏み出す後押しになると語りました。友人関係が変わってしまうかもしれない、同情されたくない、大ごとになって家族に迷惑をかけたくない、という当事者たちの多様な心情があることをまずは知ること。そして、「気づく」「寄り添い受け入れる」「支援につなげる」という伴走のあり方や、大切さについて伝えました。

=====

**—この映画を製作されました、ケアラーアクションネットワーク協会の持田代表理事、この映画に込めた想いを聞かせください。**

**持田氏：**今回、中学生から大学生までのヤングケアラーたちからケアの経験談を募集し、応募作品の中から3つのお話を選びました。それら実話をもとにオムニバス形式で、家族のケアをする高校生たちの日常生活を描いた映画を製作しました。

その中の一つの原作を書いたご本人は、「いままで、私は大丈夫、大したことはしてきていない」と思って生きてきたけれど、映画で自分の家族が忠実に描かれたことで、「自分は家庭の中でなんとかしようと、もがいていたんだ」と客観視でき、友達に話すことができたそうです。また、「私のように自分は大丈夫だと思っている子が多いので、相談窓口には行きづらい。だから、その人が本当は頑張りすぎているんだってことに気づけるようなサポートが必要だと思う」と話してくれました。

第三話では、幼い頃から発達障害のある弟の「姉」として弟をとてとても大事に思っている主人公が登場します。先輩や友達には、きっと弟のことは分かってもらえない、同情されたくないと思っています。しかし、母親のアシストも

あり勇気を出して当事者の集まりに参加したことで、「自分は一人じゃないんだ」と気づくことができ、さらに勇気を出して友達に弟を紹介すると、すんなりと受け入れてもらえました。「気にし過ぎていたのは自分の方だったんだ」と考えが変わるんですね。

ケアラー自身が思い込んでいることもあるよ、一歩踏み出してごらん、というメッセージを込めています。

**—行政や支援団体、我々のような民間企業が、より良い社会づくりのために、ヤングケアラーの声を代弁して知ってほしいと考えるポイントについてはいかがでしょう？**

**持田氏：**現在、福祉サービスをどのように家庭に導入するかが議論されていますが、家族が在宅介護を担っている場合、まず「ケアに向かう気持ち」を理解することが重要だと思います。福祉サービスの導入によって子どもに自由な時間ができると思いがちですが、その一方で「自分がやってきたことは意味がなかったんだ」と喪失感を抱いてしまう子どももいます。それを防ぐためには、今まで子どもが「頑張ってきたこと」を認め、その頑張りや「補うため」に福祉サービスがあるのだということを子どもたちにも伝えたいですね。

若いうちに自己開示ができることは大切です。もちろん、友達に打ち明けるか否かは本人の意思によるものであり、正解はありません。ただ、「家族のケアをしているのは自分ひとりじゃない」、「他にも似たような境遇の人がいる」と知ることによって「一歩踏み出す勇気が出せるようになる」と私たちは活動を通して実感しています。そのためには、自己開示できる場所や仲間が必要です。地域企業の皆様が、行政や支援団体と連携していくことで、そうした場を増やせるのではないかと期待しています。

## 「ひとりじゃない」「孤独にさせない」企業、行政、支援団体のつながりの重要性

神戸市職員の上田氏は、就労支援やレスパイト（ケアラーの小休止）で協働する民間企業との事例を紹介しました。また、東京都港区の中村氏は当事者や関係各所をつなぐヤングケアラー支援コーディネーターの観点から、企業の関わりがケアラーの成長段階に必要なサポートとなる可能性を示しました。そして、会場に集まった企業の担当者に対して、連携の重要性を訴えました。

=====

**—映画の感想をお聞かせください。また、これまでの神戸市の取り組みや、現在必要だと感じられていることについて教えてください。**

**上田氏：**映画を観て、言葉にできないほど多くのことを感じました。ヤングケアラーの実態を知るきっかけとなり、認知が広がることに期待しています。私たちは「ケアはお手伝いとう違うのか」、「家族ケアは当たり前だ」とケアラー自身

が気持ちを封じ込めて日々の生活を送っていることを理解し、周囲は何かができるのかを考え続けることが重要だと改めて思いました。

2021年6月、神戸市は全国で初めて自治体としてヤングケアラーの相談窓口を開設しました。これまでに220件以上の支援を行ってきましたが、連絡の8割は関係機関からです。当事者やその家族からの連絡は2割以下にとどまっています。40人学級の2～3名がヤングケアラーであると推定されているため、全体の数字からみると支援が届いているのはごくわずかだと考えられます。

行政の取り組みはもちろん重要ですが、民間企業だからこそできる支援の形もあります。ヤングケアラーは時間の制約や家庭で過ごす時間が多いため、社会性を身につけることが難しく、若者ケアラーの就業は大きな課題の一つです。神戸市では、民間企業と提携し、ケアラーに就業の経験を提供するなど新たな取り組みを進めています。今後も連携して活動を進めていきたいと考えていますので、民間企業のみならず、自社で何ができるかについて考えてみていただきたいと思います。

**ー日本イーライリリーでは、支援団体の皆様のご協力を得て、ヤングケアラーの理解を深めるための勉強会を重ねてきました。そして、ようやく近隣企業の方々と、共に学ぶ場を設けることができました。当事者や関係各所に直接支援をコーディネートされる立場から、我々のような民間企業への期待を教えてください**

**中村氏：**人種、年齢、性別を問わず多様性が受け入れられる時代になってきています。ヤングケアラーという言葉の認知度は上がっていますが、ヤングケアラーについても同様に一括りにするのではなく、「子どもが子どもらしく過ごせる」という観点でサポートすることが大切です。

「困ったら声をあげなさい」と当事者に言うのではなく、声をあげやすい環境を周囲の大人が作る事が重要です。行政や支援団体だけでなく、民間企業による取り組みも大切だと考えています。今回のようなイベントを通して理解を深め、企業の強みを活かして地域社会と関わり続けていただくと良いと思います。



神戸会場の様子：東京会場を中継で繋いで開催しました



神戸会場の様子：両会場で計128名が集まりました

=====

神戸と東京の会場をつないで開催した今回のイベントでは、映画とトークセッションを通じてヤングケアラーの正しい理解や民間企業の多様な関わり方の重要性を確認できました。会場内は、共に伴走者として子どもたちの未来への選択肢を広げようという活発な意見が飛び交い、イベント終了後の交流会も盛り上がりました。

#### ■ オムニバス短編映画『ツナガル』について

3名の高校生が三者三様に家族のケアをしながら、自分の意思と選択で自分の道を切り拓いていく、実話をもとに製作されたオムニバス形式の短編映画。映画を観た方に、ケアラーであるか否かに関わらず、自分を登場人物の誰かに投影しながら、自分の行動によって周囲の状況が変わっていく可能性を感じてもらえるよう製作されています。また、周囲の大人には、「もし自分が家族のケアをすることになったら・・・」と、ケアを自分事にして捉えるきっかけとなることを期待されています。

企画・製作： 一般社団法人ケアラーアクションネットワーク協会 (<https://canjpn.jimdo.com/>)

サブタイトル： 一歩踏み出すその勇気で 広がるせかい

2024年12月  
日本イーライリリー株式会社